

## 発 達 19 (336~343)

座長 内田伸子・宮本 実

- 336 初期言語行動に関する縦断的研究  
— (3) 生後6カ月から11カ月までの刺激—応答実験における非音声言語行動の発達(女児の例)—
- 337 初期言語行動に関する縦断的研究  
— (4) 非統制母子自由遊び場面における音声言語行動の発達経過(女児2例について)—  
東京学芸大学 ①若 葉 陽 子  
〃 ②飯 高 京 子
- 338 乳幼児における母子関係と言語行動の発達に関する研究 — (3) 生後1カ月から4カ月までの追跡研究—  
横浜市立勝田小学校 神 本 記三子
- 339 乳児期における母—子相互交渉と初期の言語発達  
国立音楽大学 高 橋 恵 子
- 340 初期言語行動の成立過程—言語行動の情動的基礎(I)—生後1カ月~6カ月までの発達経過(その1)
- 341 (その2) お茶の水女子大学 ①内 田 伸 子  
〃 ②秦 野 悦 子
- 342 養護施設幼児における言語補償プログラムの検討(II)  
北海道教育大学 宮 本 実 他
- 343 ある12カ月児の発話の意味を規定する手がかりの分析  
愛知淑徳短期大学 山 田 洋 子

336, 337 に対して, 内田より人見知り時期の乳児の実験の困難度について, 山田より刺激呈示順序と手の運動の出現の仕方の関係について質問が出された。高橋より, このような方法, 討論③④⑤で示されている程度のとらえ方で事例を重ねていくことは見通しが悪いのではないかと指摘に対し, 発表者らは, 母親の育児態度, 行動計測によって得た値と乳児の反応項目間の相関をとるなど統計的な分析にこれらのデータを生かしていきたいとの方向が示された。佐々木(祇園寺学園短大)より初期言語に及ぼす人の声の質, 豊富さの影響という点から, 今後父親の語りかけの分析も加えていってほしいとの提案がなされた。

338 に対して, 高橋より乳児の発声頻度と母親の発

声頻度が直接関連していないとの発表は336と矛盾するのではないかと, との間に対し, 若葉らは, 6つの変数の中に母親の発声頻度も含まれた変量群全体として関係しているため矛盾はない。また古澤は, 母親の発話のみが単独に作用するのではなく, 他の行動と複合して影響することを示唆している, と説明した。伊志嶺(武蔵野女大)より男女差に関する問が出され, 4カ月頃までは男女差はみられない旨の回答がなされた。

339 に対して, 若葉の 1. 言語能力の側面, 2. 初期の音刺激(特に人声)に対する敏感さの間に, 1. 受容面を扱う, 2. 健康な正常児, との答がなされた。古澤(日女大)の 1. 家庭訪問中の観察資料の信頼性, 2. 6カ月と9カ月の母子交渉のペア毎の変動の検討, の間に対し, 1. 最大2人が交替しているため記録には一貫性がある, 項目によっては一致度の高いものと低いものがある, 2. 4才位まで追跡すると, それらしく変わるものとそうでないものがあるが, 分析は行っていない。ケーススタディ的に分析が可能とは楽観的には思えない。旨の回答がなされた。

340, 341 に対し, 藤友(北教大)より, 保育児の家庭場面でのデータも分析に加えていってどうか, 等の提案がなされた。若葉の 1. IUの分け方の基準, 2. "共感的受入れ"をどのような観点でおさえるかの問に対し, 1. あるテーマが持続する期間を1ユニットとする, 2. 質的・量的におさえる方法について検討中である, との回答がなされた。若葉より, 非言語行動の分析も含め, 音声の質と感情状態との関連などの分析も手がけていってほしいとの提案がなされた。

342 に対して, 飯高より, 言語訓練, 非言語訓練の内容について問が出され, 訓練の具体例の説明がなされた。

343 に対して, 佐々木の, 食べた経験のないチョコに[ummei]の発声の生じた理由の問に対し, プリンも同様だがどちらもはでな図柄が基準となっているようだ, との回答。飯高より刺激図形と音刺激を組合せてみて何が弁別の手がかりかを明らかにしていってどうか, に対し, 音声模倣による反応を極力さけ自発的の反応をとらえるよう統制したとの答がなされた。中沢(東洋英和短大)の, 一般基準は二次元図形にして殆ど全面的に通用するのではないかと提言を受けて, この種のデータを積み重ねていくことで, 何が一般基準として一般化できるか検討していくべきであろう, と述べた。(内田伸子・宮本 実)